中央農業総研
北陸センター

遺伝子組み換え稲試験栽培へ

県に内容を説明

新潟日報 05.5.11

いもち病など複数の病害に強くなる遺伝子組み換え稲の屋外栽培実験を計画している中央農業総合研究センター北陸研究センター（上越市）は十日、県庁で県農水部長らに対し、試験内容やコシヒカリとの交雑防止措置などについて説明した。県側は「地元農家らの理解を十分得られるよう慎重に進めてほしい」と要望した。

実際に実験が行われれば、同センターによる遺伝子組み換え稲の屋外栽培実験は三例目。県庁を訪れたのは片山秀策同センター長ら四人で、県側は武藤敏明農水部長ら四人が出席した。

同センター側はコメの品種「どんとこい」に、病害に強い野菜「カラシナ」の遺伝子を導入することで、耐病性のある稲が開発できたことを説明。その上で①実験は同センター内の四㌶の隔離ほ場で行う②花粉が飛散しないよう開花前に刈り取る③採種用の稲は袋掛けする―などコシヒカリとの交雑防止策を伝えた。

同センターの田中宥司・北陸地域基盤研究部長は「減農薬を実現する稲の開発につながる研究。すぐの商品化は無理だが科学的情報は集める必要がある」と実験への理解を求めた。

これに対し武藤部長は「遺伝子組み換え食物を受け入れるのは現時点ではかなり抵抗があると思う。本県はコシヒカリの主産県でコメへの思い入れは強い。無理をせず進めてほしい」と述べた。

栽培実験は農水省、環境省の承認を得られれば、五月末にも始める。

県に対する遺伝子組み換え稲栽培実験の説明会＝10日、県庁

遺伝子組み換え稲 屋外実験

上越市「十分な説明を」

新潟日報 05.5.18

中央農業総合研究センター北陸研究センター（上越市）が今月末にも開始するとしている遺伝子組み換え稲の屋外栽培実験について、上越市は十六日、安全性や風評被害を不安視する市内の生産者や消費者に対し十分な説明を行うよう同センターに要請した。

同市は片山秀策・同センター長あてに、実験の目的や実験に至った経緯などの情報開示を求める木浦正幸市長名の文書を提出した。同市農業振興課は「病気に強い稲をつくる実験の重要性は理解している。だが、市民は花粉が飛んで他の米と交雑することを恐れている。不安を払しょくすべく説明責任を果たしてほしい」と話している。

同市に続いて十七日には、JAえちご上越も地域の理解が得られるまで実験を中止するよう要請した。こうした不安に対して同センターは「稲の袋掛けなど、飛散防止対策は万全を期している。田植え、稲刈りの見学会や研究成果の市への提供で、細かな情報公開にも対応したい」と理解を求めている。